

体数は57隻減少していた。

2000年12月31日現在の当県沖底の操業許可海域別隻数を表4に示す。当県海域を中心に北は青森県から南は千葉県まで、様々な操業許可海域の漁船が含まれていた。

2000年12月31日現在の当県沖底・小底のトン数階層別隻数を表5に示す。当県の沖底は20トン未満の漁船が多く、8割以上を占めていた。当県の小底は6トン台の漁船が最も多くなっていた。

対象魚種の推移

1. 漁獲量からの検討

当県沖底と小底の主要魚種の漁獲量を表6、表7に示す。

沖底では、1955～1960年にはサメ類（殆どがアブラツノザメ）、タコ類、キチジが多獲されていた。1965～1980年にはイカ類の漁獲量が増加し、スケトウダラ、メヌケ類が多獲された年もあった。近年ではタコ類、ヒラメ・カレイ類、イカ類の漁獲量比率が高かった。

小底では、調査期間を通してヒラメ・カレイ類、タコ類、イカ類の漁獲量比率が高かった。

2. 水揚げ金額からの検討

沖底・小底について、各年の間の魚種組成の類似度からクラスター解析を行った結果を図1、図2に示す。

沖底は、1969～1979年の間に2年群、1980～1999年の間に4年群が認められた。1971～1979年と1980～1984年は水揚げ金額上位魚種がほぼ同一であった。

小底は、1969～1979年の間に3年群、1980～1999年の間に4年群が認められた。1976～1979年と1980～1984年は水揚げ金額上位魚種がほぼ同一であった。

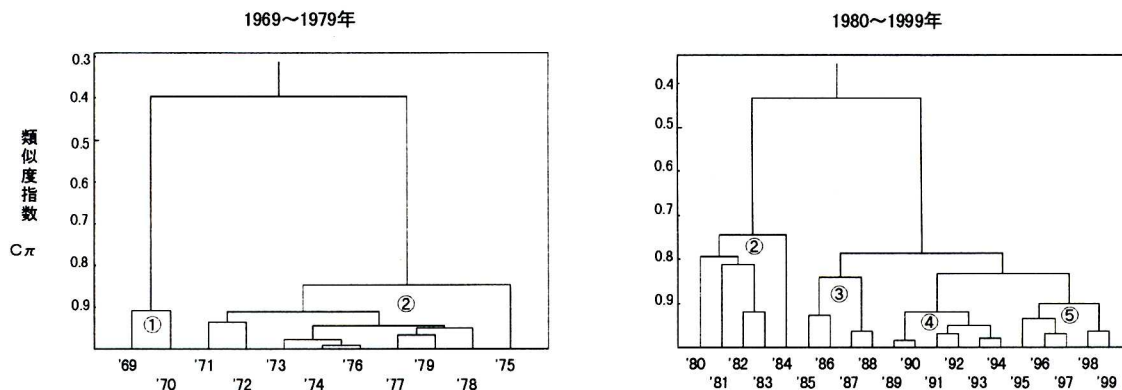


図1 各年間の類似度指数によるクラスター解析結果(沖底)

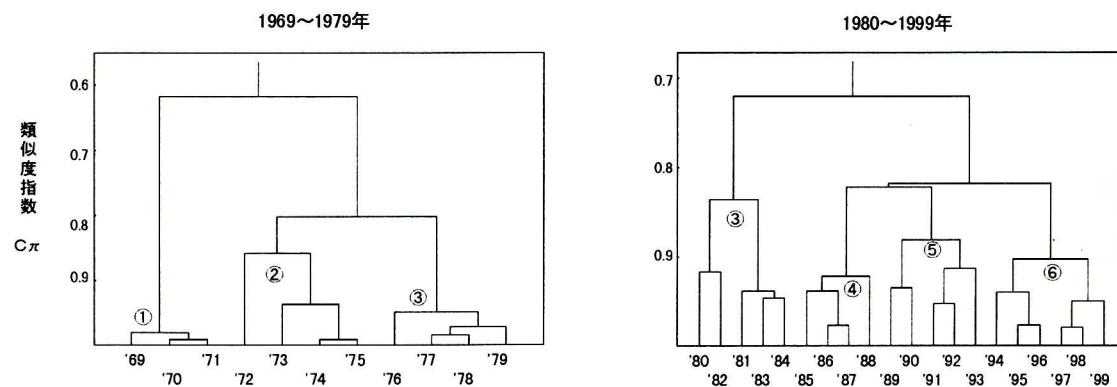


図2 各年間の類似度指数によるクラスター解析結果(小底)